

ピークを過ぎた中国は世界の脅威、習近平がまず噛みつく相手は？

2022年1月4日（火） 15時45分

クリス・パッテン（オックスフォード大学総長）



習近平はナショナリズムをあまり、国民の支持を得ようとする可能性が高い Andrew Galbraith-REUTERS

＜習が「国力のピーク期」を浪費した、との見方がある。過剰債務、人口動態、経済格差という深刻な構造問題を抱えた共産中国が、2022年、さらに攻撃的になる可能性がある＞

独裁者は業績を他人に評価されることを嫌う。たとえ親しい同僚や側近であっても、誰かに成功や失敗を評価されることは、そのリーダーの弱体化につながる大きな一歩だ。

それゆえ彼らにとっては、批判を奨励することはもちろん、許すことも問題外なのだ。

毛沢東以来、中国共産党で最も強力な「ボス」となった習近平（シー・チンピン）国家主席は、このことを特に強く感じているに違いない。

習は2022年の第20回中国共産党大会で、鄧小平が党の最高指導者に課した2期の任期制限を撤廃し、3期目の政権継続を承認される見込みだ。

鄧の任期制限には毛時代のような独裁に戻ることを防ぐ措置という側面があり、実際に党指導部の集団指導体制を実現した。

しかし、習が構築した個人崇拜と党規約に盛り込まれた「習近平思想」の内容を見れば、現国家主席の意図は容易に理解できる。

習思想の第1の特徴は、中国共産党は中国の歴史・文化の最良の部分全てを受け継ぐ者であると断言していることだ。第2に、憤怒の念に駆られたナショナリズムの色彩が強い。

第3の、そしておそらく最も重要な特徴は、国民が朝起きてから夜寝るまでの全てを習が管理していることを決して忘れるな、という党と国への指示だ。

しかし側近たちは、中国が経済力と2008年の金融危機後に欧米が直面した問題のおかげで手に入れた「国力のピーク期」を習が浪費したのではないかとみているに違いない。

「ポスト・ピーク期」の中国が抱える構造問題は、今後ますます明白になるだろう。中国はこれまでのような、厄介なほどの成功を収めた新興大国ではなくなったようだ。

中国以外の世界にとっては、それによってさらに厄介な脅威となる可能性を秘めている。

[次のページ](#) **男女比率の不均衡が50の「鬼城」を生み出した**

1

2

3

[次のページ](#)

ピークを過ぎた中国は世界の脅威、習近平がまず噛みつく相手は？

2022年1月4日（火）15時45分

クリス・パッテン（オックスフォード大学総長）

第2の大きな問題は、人口動態だ。債務の急増と生産性の低下は、生産年齢人口の劇的な減少に伴って起きている。予測によれば、中国の労働人口は2050年までに1億9400万人減少する見込みだ。

さらに中国では男女比率の不均衡が大きく、世帯数と出生率の両方が減少している。この傾向は最も若い年齢層で顕著であり、10～14歳の男女比は1.2対1だ。世帯数の減少を考えれば、住宅建設ブームが多く無人アパートと少なくとも50の鬼城（ゴーストタウン）を生み出したことも不思議ではない。

こうした問題に対処するため、習は生産性の高い民間企業への統制を強め、国有企業を優遇する方向に大きく舵を切った。

この政策の背後にあるのは、成功した大手IT企業に主導権を奪われ、民間部門の経済的成果が格差を悪化させることへの恐れだ。中国共産党にとって、経済的格差は第3のアキレス腱である。

しかし、富と所得の不平等さを測るジニ係数を見ると、現在の中国は多くの欧米先進国よりも格差が大きく、アメリカのレベルに近づいている。少数の億万長者に財産の一部を差し出させたとしても、これでは焼け石に水だろう。

格差を是正するためには、党上層部のために多額の富をかき集める共産党の権力構造の解体が必要になる。

習近平の中国は、深刻な資源と環境の問題も抱えている。原油の輸入量は世界最大。食糧安全保障の問題にも直面している。気候変動の影響も甚大だ。

特に中国北部は水不足に陥っている。中国の水資源は世界の7%にすぎないが、人口は18%を占め、人が住む場所と水がある場所の間に完全なミスマッチが生じている。

中国が二酸化炭素の排出量を削減すれば、さらなる経済成長の足かせとなる可能性が高い。いずれにせよ債務問題と人口問題の結果、経済成長は横ばいになるだろう。国民が経済危機を実感すれば、習はさらなる監視と脅迫によって権力を維持しようとする可能性がある。

習近平政権は地政学的に明らかに過剰な動きを見せてもいる。アメリカと自由民主主義陣営の衰退は不可避だという見方に固執する習は、「わが国が主導権を握り、優位に立つ未来」を目指すと豪語した。いわゆる「戦狼外交」を通じ、中国はインド太平洋地域の盟主となり、専制主義の成功モデルを世界に示すというわけだ。

しかし、インド、日本、韓国、シンガポール、オーストラリア、ベトナムなどの近隣諸国は、習の強権外交に抵抗する姿勢を強めている。さらに、アメリカは他国との協力体制構築に成功し始めている。

[次のページ](#) **中国の攻撃的外交が失敗したことは客観的事実**

[前のページ](#)

1

2

3

[次のページ](#)

ピークを過ぎた中国は世界の脅威、習近平がまず噛みつく相手は？

2022年1月4日（火）15時45分

クリス・パッテン（オックスフォード大学総長）

「レッドライン」を示せ

その狙いは、第2次冷戦の一環として中国を「竹のカーテン」で包囲することではない。自由民主主義陣営の目的は中国の悪行を抑制すること、弱いものいじめの国際協定違反の代償を支払わせることにある。

世界の利益になる場合は協力したいと考えているが、それも中国が約束を守れば、という条件付きだ。

中国の攻撃的外交が失敗したことは客観的事実だ。今こそ方針を変えなければならない。

危険なのは習がさらに攻撃的になることだ。その場合、経済成長を通じて国民の暗黙の支持を保つ代わりに、状況が悪化するなかでナショナリズムをあおり立て、支持を得ようとする可能性が高い。

多くの専門家が、中国の台湾侵攻を現実の脅威とみている。世界にとって、今は危険が増している時代だ。

自由民主主義陣営は習近平政権に対し、越えてはならない「レッドライン」があること、その1つが台湾海峡に引かれていることを、注意深く、だが毅然とした態度で明確に示さなければならない。

（筆者は最後の香港総督、元欧州委員会委員）

© [Project Syndicate](#)

【話題の記事】

[中国に道徳を説いても無意味...それでも「核拡散」を防ぐ方法はある（元豪首相）](#)

[インド太平洋に安倍晋三が残した「遺産」](#)

※画像をクリックするとアマゾンに飛びます

2022年3月15日号（3月8日発売）は「**ウクライナ侵攻
プーチンの戦争**」特集。「不敗の帝王」プーチンが苦
戦中？ ウクライナ戦争の勝算と誤算／ルポ・最前線の
街ハリコフ

[前のページ](#)

[1](#)

[2](#)

[3](#)